

離島の弱点克服！ ICTを活用しアナウンス技術の向上を図る

Web会議システムを活用した外部講師による遠隔指導

唐津市立馬渡中学校 校長 丹野 到, 教諭 坂田 龍二, 教諭 中山 沙織

キーワード：中学校, 2年生, 課外活動, 遠隔指導, 外部講師

実践の概要

情報化社会に生きる中学生の豊かな人間性の育成を目標に、ICTを活用した外部講師によるアナウンス技術の遠隔指導に取り組んだ。簡易なWeb会議システム「Skype」を活用し、島外の外部講師による遠隔指導を受けることで、離島の弱点を克服した。

1. 学校環境及び生徒の状況

本校が位置する馬渡島は、佐賀県の東松浦半島の最北端に位置する波戸岬から、約9キロメートル沖の玄界灘に浮かぶ佐賀県最西端の島である。目の前には、コバルトブルーの海と澄み切った青空と色鮮やかな草花。耳を澄ませば、ウグイスのさえずりに「ピーヒョロロロ」というトンビの鳴き声が響き渡る。そして、港には、名護屋・呼子と馬渡島を結ぶ定期船が停泊し、南国のどこの港町の雰囲気さえも感じさせる。

近年、この風光明媚な島を取り巻く状況が厳しくなっている。地域住民のほとんどは漁業で生計を営んでいるが、沿岸漁業が年々厳しさを増してきており、近年はウニ、アワビなどの稚貝を放流する等、獲る漁業から育てる漁業へ転換を迫られている。

本校は、小学生22名、中学生12名の児童生徒数34名、職員数22名の小中併置の極小規模校である。児童生徒は、人なつこく純情素朴であるが、外部への

積極性や表現力がやや弱い。学習に対して向上心はあるが継続的な努力を苦手としている。そして、家庭での学習習慣が身に付いていない児童生徒たちは、学年が進むにつれ学力差が広がる傾向にある。

中学校卒業後は、島外の高等学校等に進学することになるため、精神的・身体的な負担が大きく、また、保護者の経済的負担も大きい。保護者の教育に対する関心は高く、育友会活動への参加や学校行事等への出席率も非常に高い。

こうした島の未来を担う子どもたちには、21世紀を生き抜く力を身に付けさせることが求められている。そのためには、子どもたちの学習習慣の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高め、外へ発信できる力を身に付けさせる指導を行うことが急務である。

2. ICT活用の目的とねらい

今回、情報化社会に生きる中学生の豊かな人間性の育成を目標に、NHK杯全国中学校放送コンテストへの出場を目指しアナウンス技術の指導に取り組むこととした。アナウンスの指導に当たっては、専門的な指導技術が求められたため、外部人材の活用が必要となる。

しかし、本校は離島に位置することから、外部講師からの直接指導を受ける機会の設定が難しく、その解決策としてICTを活用することとした。

3. 実践内容

3.1 ICT活用のポイント

Web会議システムを活用し、外部講師によるアナウンス技術の遠隔指導を行う。その際、導入が容易なシステムとしてMicrosoft社のSkypeを利用する。そして、技術指導を受けている際の録画クリップや音声クリップを即座にDVD化して生徒に渡すことで、家庭での自己練習が容易にできるよう工夫。

3.2 使用したICT環境

本校には、離島間の合同学習を行うために専用のテレビ会議システムが導入されており、同システム同士であれば、容易に接続し、高画質な映像や音声による通信が可能である(図1)。しかし、本システムは高額なため、個人での導入は難しく、外部講師との通信には簡易なシステムの導入が必要となる。そこで、今回、Skypeを活用し、アナウンス技術の指導を遠隔で行うこととした。

なお、インターネットを活用した通信では、様々な脅威が想定されるため、常時インストールした状態にせず、必要に応じてインストール・アンインストールして活用することとした。

績がなく、アナウンス技術の指導のノウハウもない状況であった。

今回、Skypeを活用した外部講師による遠隔指導を受けることで、離島の弱点を克服し、アナウンス技術の指導が可能となった。その結果、同コンテストの出場を果たすことができたとともに中程度の成績(明確な順位は未発表)を得た(写真1)。



写真1 NHK杯中学校放送コンテスト県大会の様子

出場した生徒の率直な感想として、「アナウンス技術の習得に役立った」「次年度も、ぜひ挑戦したい」「類似のコンテストがあれば、ぜひチャレンジしたい」とたいへん好意的な感想を述べている。また、「Skypeによる遠隔指導は、アナウンス技術の習得に大いに役立った」「DVDを自宅で視聴し自己練習に役立てることができた」とICT活用の有効性を大いに感じている。

加えて、「チャレンジする意欲を体得することができた」「失敗しても顔に出さないよう改善したい」等、生徒は「挑戦する意欲」を体得できている。これらのことから、「外へ発信できる力を身に付けさせる」「情報化社会に生きる中学生の豊かな人間性の育成」という本実践の目標に対して、一定の成果を得ることができたものとらえている。

5. 今後に向けて

離島に位置する本校には、メリットがある反面、デメリットも多い。しかし、そのデメリットを克服することで、継続的に受け継がれてきた本校ならではの教育により、児童生徒の能力や態度を更に伸ばすことができる。

本校では、過疎化による児童生徒数減を克服する目的で、島留学制度を開始している。現在、その制度を活用し都市部から移住してくる家族も増えている状況である。

ICTの進歩により、離島で生活しながらも、仕事を行える環境が整ってきており、この島留学制度を継続させることで、学校の活性化とともに離島の活性化にもつなげていきたいと考えている。

学校を取り巻く環境の変化が大きい昨今、離島ならではの教育を生かしながら、ICTを活用することで、離島の弱点を克服し、21世紀を生き抜く力を子どもたちに身に付けさせていきたい。

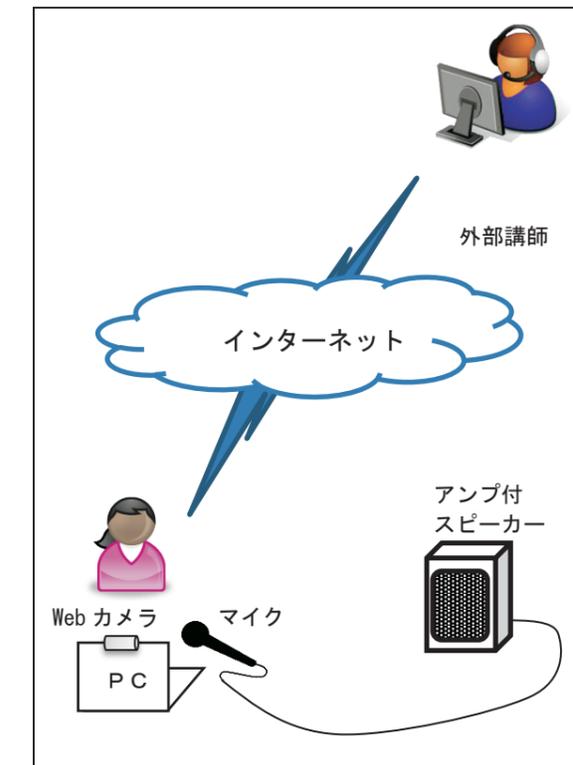


図1 システムの概略

4. 成果

NHK杯中学校放送コンテストは、アナウンス技術の指導の特殊性から、新規の出場は二の足を踏むことが多い。本校においても、これまで同コンテストへの出場実

回	時間	指導上の留意点
1	4時間	外部講師による対面指導(主に発声の指導) 外部講師による対面指導(主に原稿作成の指導)
2	1時間	担当職員による指導(主に原稿作成の指導) 外部講師によるSkype遠隔指導(主に読み方の指導)
3	1時間	外部講師によるSkype遠隔指導(主に読み方の指導)
4	3時間	外部講師による対面指導(主に読み方の指導)
5	1時間	担当職員による指導(主に読み方の指導) 外部講師によるSkype遠隔指導(主に読み方の指導)
6	1時間	担当職員による対面指導(主に発声の指導)